

遠隔監視導入が有効

但馬上下水道
事業協議会

セミナーで事例紹介

兵庫県新温泉町、香美町、養父市、豊岡市、朝来市で組織する但馬上下水道事業協議会（谷垣敏夫会長）は1日、香美町庁舎で「行財政

改革時代の水道事業」をテーマに水道セミナーを開いた。協賛は小松電機産業とエナテクス。日本水道新聞社等が後援。県内の上下水

道関係者55人が参加した。水道技術研究センターが厚生労働省から受託した「小規模水道の運営管理に関する検討調査」の全国3



「やくも水神」のタブレット端末を見る参加者

モデル地区の一つが同協議会の3市2町であることから、同センターの藤原正弘理事長が基調講演したほか、事例発表と施設見学を行った。

藤原理事長は調査の概要を紹介し、その調査結果から、地理的要因にかかわらず管理コストの削減効果が得られるため、効率的な施設の維持管理には「遠隔監視システム」の導入が有効な手段であるとの結論を報告した。

この結論を受けて、事例発表では、多可町と香美町における遠隔監視による上下水道一元管理の導入経緯と現況が報告された。また、両町が導入した一元管理のためのシステム「やくも水神」を開発した小松電機産業が、システムの概要を紹介するとともに、4月1日から運用開始するリアルタイム監視機能の新サービスについて説明した。

セミナー冒頭、同協議会の谷垣会長は「盛りだくさんの研修内容なので、しっかり学んで参考にしてほしい」とあいさつした。

横浜市や横浜商工会議所など5者が運営するこの認定制度は、横浜市への地域貢献の視点から、本来業務

宅配

横浜への貢献で認定

経営とCSRに評価

宅配（斜森太郎社長）が11日、「横浜型地域貢献企業・最上位認定」を取得した。同社の地域を意識した経営とCSR活動が評価されたもの。

宅配は市内に二つの営業所を持っているが、その職員は約7割が地元雇用。また、全従業員が講座を受け「認知症サポーター」となり、地域住民へ見守り・声

続いて兵庫県の西田浩治生活衛生課水道係長が、県内の水道施設状況について情報提供。小規模水道が多く、県域の南北を分割した経営統合による広域化は進んだが、企業会計への移行や市町域を越えた事業統合

が課題だとした。施設見学では、香美町の境加庄ポンプ場と森浄水場を視察。参加者は設置されている「やくも水神」の監視装置を間近に見て、そのデータを携帯電話やタブレット端末で確認していた。